



ももたろうくん

ももたろう通信



発行日：2021年3月26日
 発行：社会福祉法人つどいの家 グループホーム
 発行責任者：飯田克也（グループホーム管理者）
 住所：〒984-0823
 仙台市若林区遠見塚2-16-15（ピポット若林）
 連絡先：022-282-4671

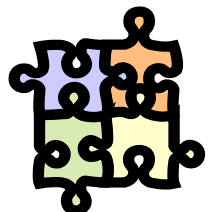
※ももたろう通信の由来：仲間と助け合い、共に作る広報誌

私達は仲間と協力して生活しています

先日2月13日23時8分、福島県沖を震源とする最大震度6強の地震がありました。さらに3月20日18時9分、宮城県沖を震源とする最大震度5強の地震もありました。大きな揺れに驚きを感じた方も多かったことと思います。あらためて災害への備えとネットワークを大切にしていかねばと感じました。3.11東日本大震災から10年が経ちました。東日本大震災では当法人の生活介護事業所、グループホームは全壊し、再建するまでに数年を要しました。その間全国から多くの方々にご支援をいただきました。3.11当時わたしは仙台市内の他事業所のサービス管理責任者3名と他市町村でグループホーム連絡会の活動に取り組む関係機関への視察研修（千葉、神奈川方面）に出かけていました。視察が終わり、早く仙台へ戻り「仙台でもグループホーム連絡会が必要」と報告しようとして電車内でメンバーと話をしていたときに東日本大震災が発生しました。駅構内では避難を促す放送があり、改札を出たところ東日本地域全域で大地震があったことを知りました。数時間駅近くの避難所に待機し、その後知人の協力があり東京から埼玉へ。国道4号線を北上、途中道路の陥没、隆起箇所が多数ありましたが、29時間かけ13日早朝に仙台に到着しました。メンバー4名はそれぞれの事業所へ戻り、復旧作業に取り組みましたが、その後も全国のグループホーム関係者から救援物資等の情報が多数寄せられました。その時にあらためてグループホーム連絡会があれば大きな支えになること、日頃からの横のつながりが大切であることを痛感しました。そして数年後待望の仙台市グループホーム連絡会が発足しました。現在仙台市内事業所を中心に会員は約50法人となっています。

新型コロナウイルスが猛威を振るっており、変異ウイルスも拡がりが見られています。コロナ禍のなか手洗い、マスク着用、換気等の感染防止対策をする日々が続いています。感染防止に努めていますが、もしもグループホームで感染者が発生した場合には、宮城県看護協会の看護師のアドバイスをもとに法人内で想定しているグループホームでのゾーニング（生活空間の区分け）対応を円滑にできるようにしたいと思います。

今後も拡がりが見られる新型コロナウイルスですが、『うつらないために、うつさないために』感染予防に取り組んでいきたいと思っています。
 （グループホーム管理者 飯田）



グループホーム紹介～にじいろ編～

今回はにじいろのOさんです。

今回はにじいろで生活されているOさんの「過ごし方」をご紹介します！

今年度は通所先のグループが変わり運動量が増えたり、にじいろでも宿泊の日数が増えたりと大きな変化がありました。年度初めは疲れている様子が見られていましたが、現在では慣れてきた様子もあるのか体調も大きく崩すことなく生活されています。なんと体重が前年度と比べると-10kgほどスリムになりました！！

Oさんは自閉症の特性から、自身から物事を発信するのは少し苦手な様子もあり、また、新しい職員などは特に「何をして欲しいのか」「どのように感じているのか」が読み取れない部分がありました。

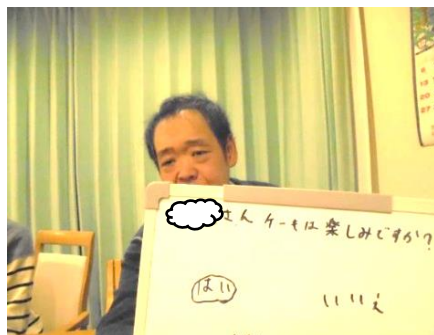
そこでコミュニケーション支援として今年度「ホワイトボードの活用」「絵カードの活用」を行ないました。絵カードでは「はい」「いいえ」や「寒い」「熱い」といった環境に関してのものから、「お水をください」「トイレへ行きたい」など職員へ伝える手段のものを提示しました。ホワイトボードには職員が聞いてみたいことを直接書いて質問し、丸を付けてもらったり、字で返答してもらったりを行ってみました。

今年度はにじいろの宿泊日数が増え、土曜日、日曜日の過ごし方に関して「どのように過ごしていくか」「余暇の過ごし方はどのように本人は過ごされたいのか」という部分についての課題が浮き彫りとなりました。これまで余暇の時間は自室でテレビを見て過ごすといったゆっくりと過ごす場面が多く見られていました。

そこから更に余暇の時間の過ごし方への支援として、移動支援の利用を始めました。初めての利用ということもあり、不安も少々ある様子…。これから少しずつヘルパーさんや新しい場所へ行くことにも慣れていけるといいなと思っています（職員の思いとしてはですが、、、）。

少しずつ自室からリビングへ、リビングから外へと余暇の生活空間が変化していく様子が見られているOさん。部屋でのゆっくりな時間も大切にしながら、色々な出会いに触れられると良いですね。

(記：村上泰庸)



震災から10年～つどいの家グループホームにとっての震災

2021年3月は東日本大震災の発生から10年となる節目です。今回は10年前の状況を当時勤務していた職員にお話していただきました。

(聞き取り：佐々木忠、伊達直美)



【にじいろ:後藤昌宏】

質問① 当時の様子、震災直後はどんな様子でしたか？

→当時はオキーノに勤務しており、2階の事務室で事務仕事をしていましたが、地震直後は室内の書類等が散乱し足の踏み場のない状態でした。1階に入居者の方が1名いたため、無事を知り安堵しましたが、つどいの家・コペルに通所し、外出していた入居者の安否確認がなかなかできずとても心配しました。入居者皆でグループホームに戻りましたが、電気・ガスが使用できず調理ができなかったため、他の事業所の職員さんに食料の確保などしていただけてとてもありがたかったです。1階のリビングで入居者・世話人7名で雑魚寝しましたが、この先どうなるかととても不安でした。

質問② 当時を振り返り、今思うことは？

→周囲の方々との関係性がとても大事だなと思います。他事業所の職員さんだけでなく、町内会長さんが真っ先に様子を見に来てくださったり、隣家の方から自転車をご厚意でお借りしたり…本当に色々な方に助けていただきました。グループホームが地域の中に存在することをきちんと周囲に伝えていくことが大事なのだと思います。

質問③ 今だから話せる裏話がありますか？

→しばらくした後ですが、人生で初めて家の壁面の修理をしました。コーキング剤を購入して、道具を世話人さんにお借りして…。震災がなければ一生経験しなかったと思います。福祉関係の仕事は幅広いな～と改めて痛感しました。

【ひかりはうす:斎藤智子】

震災が起きた日は確か金曜日だったかと思います。自宅は棚が倒れた程度で大きな被害はありませんでした。地震でさくらはうすが使用できなくなってしまったため、さくらの利用者さん、職員さんも皆ひかりはうすにいてとにかく「ごちゃごちゃ」としていました。実家に戻った利用者さんもいましたが、すごく狭かったです。皆気持ちが小さくなっていったように思います。

【ひかりはうす:佐藤雪江】

震災当時は七ヶ浜町の自宅にいました。地震直後は何が起きたのか分かりませんでした。家の中がめちゃめちゃになっていました。道路も怖くて走れませんでした。引き波が見えたため急いで避難しました。自宅は浸水を免れましたが、周辺は津波により浸水。「陸の孤島」状態になっていました。津波が引いた後に自宅に戻りましたが、周辺には瓦礫が散乱していました。電気、水道は使用不可だったので、瓦礫の薪で火を焚いて暖を取りました。夫や息子との連絡も中々取れませんでした。数日後に再会できました。ガソリンも不足していたため、5月頃までひかりに出勤することができませんでした。

当時の状況

グループホームのなかでも特にさくらはうすは建物が全壊という被害を受けました。ひかりはうすや自立体験ステイ用に借用していた建物へ避難する生活が続きました。(2012年5月に再建)



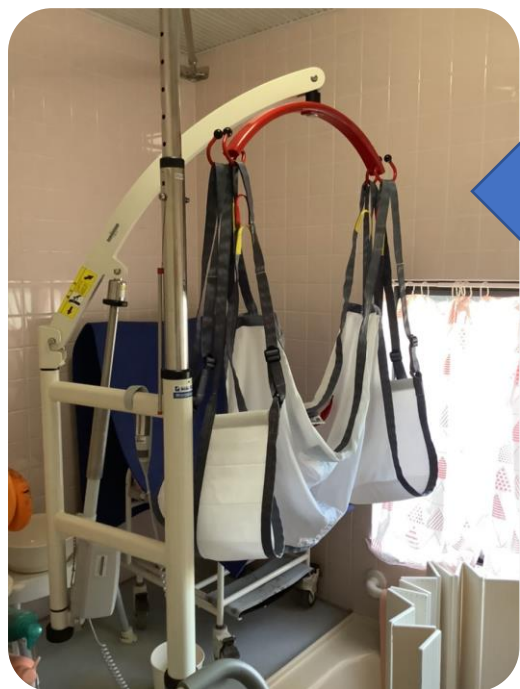
移動用リフトを設置しました



グループホーム「にじいろ」「ひこうき雲」に仙台市から障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業費補助金をいただき、移動用のリフトを設置しました。

浴室に設置したリフトはシャワーチェアから湯船に移動する際に入居者さんを安全に介助することができ、居室に設置したリフトは車いすからベッドへのスムーズな移動に役立っています。

両方とも支援者の身体の負担を軽減することにとっても役立っております。助成いただきありがとうございました。（記：佐藤靖志）



ひこうき雲の浴室に設置



にじいろの入居者居室に設置

【編集後記】

今年もこの季節がやってきました。今年の自分は花粉症ではないと思い込もうとしましたが、やはり気持ちだけでは乗り切れませんでした…錠剤と目薬のおかげでどうにか目の痒みとくしゃみも落ち着いています。日中は暖かくなる日も増えてきましたが、朝晩はまだ冷えるので、引き続き手洗いうがいと栄養もしっかり摂って体調を崩さないように気を付けながら過ごしていきましょう。（記：坂本裕美）

